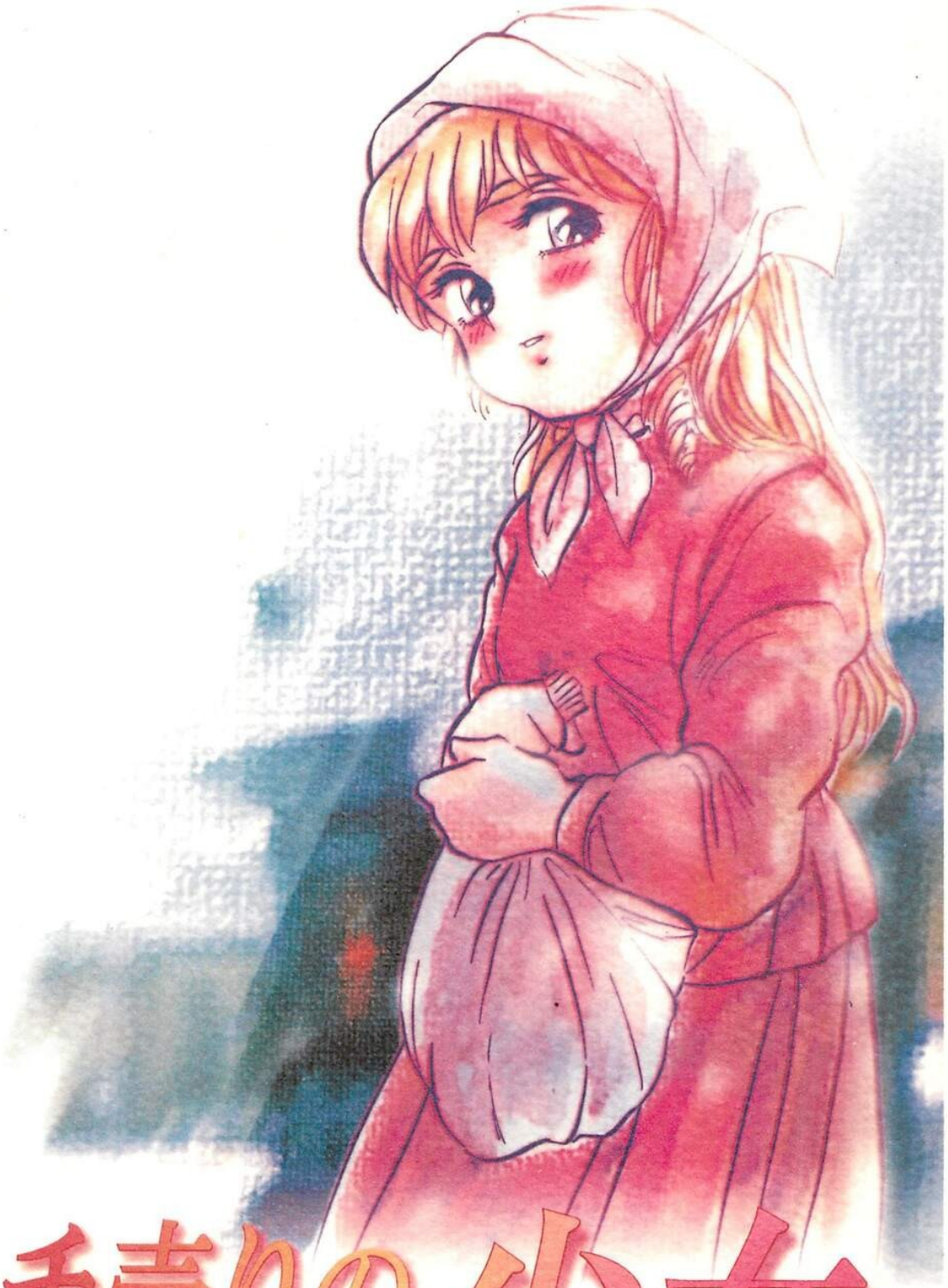
倒錯童話集4.0



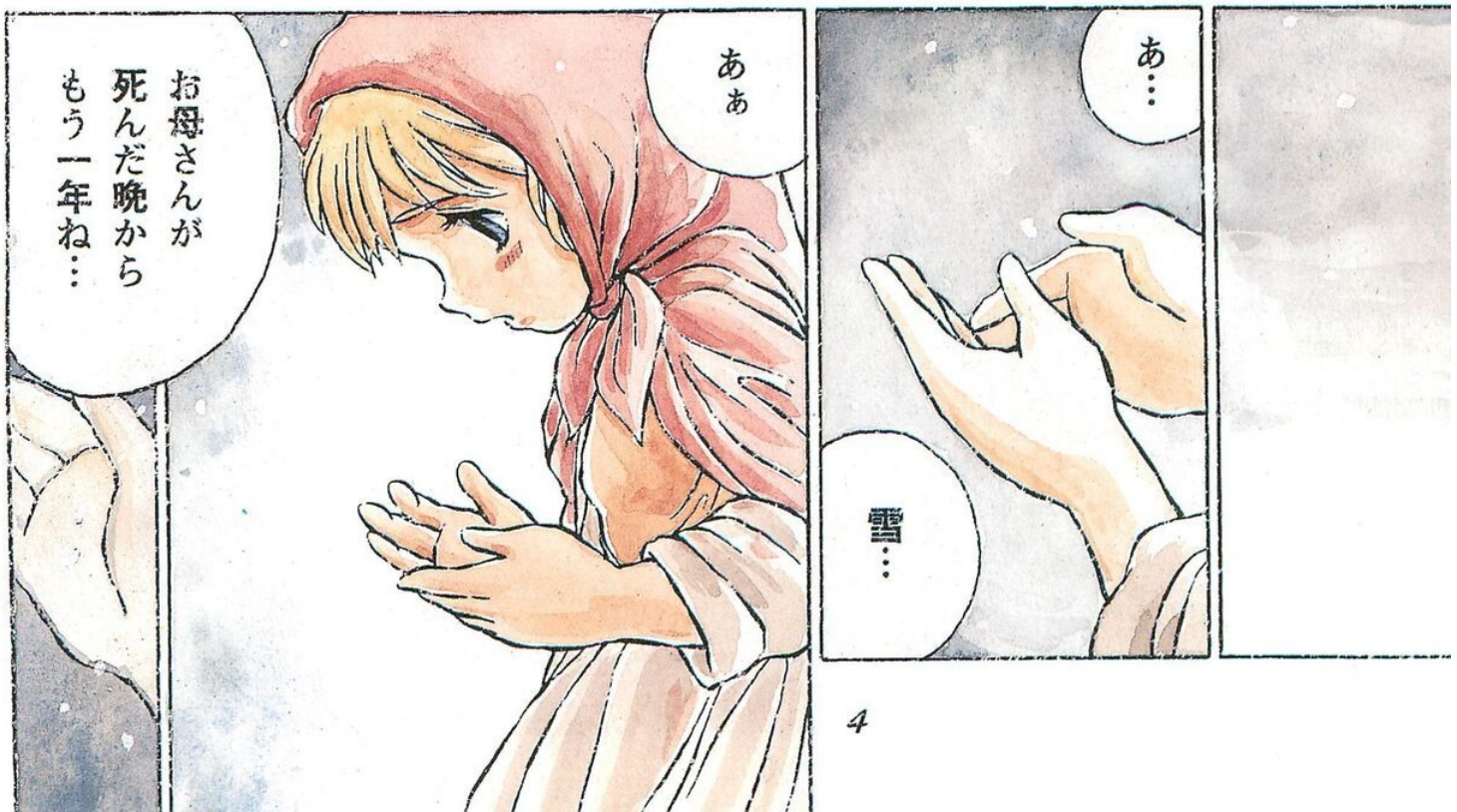
マッチ売りの少女

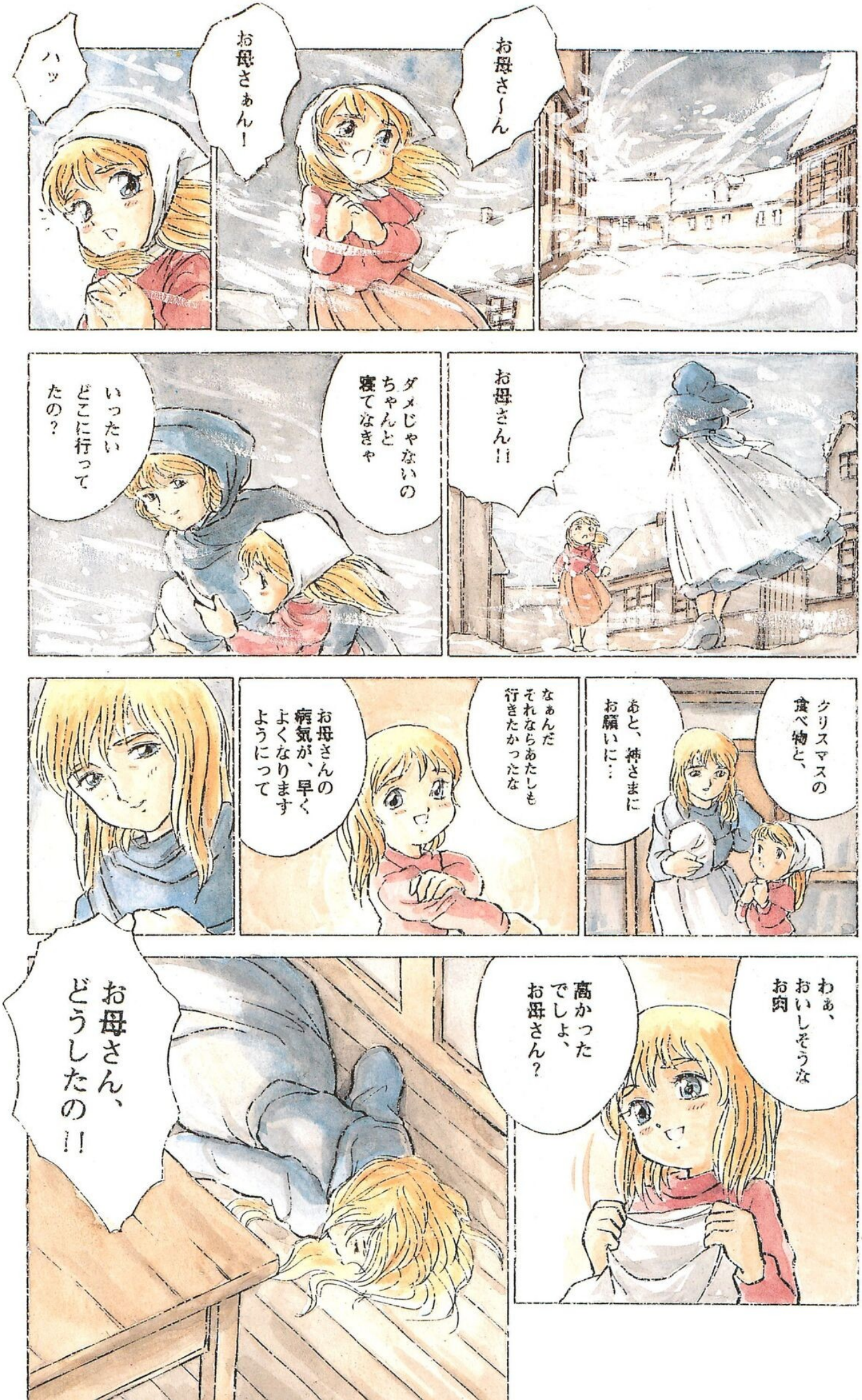
成人向

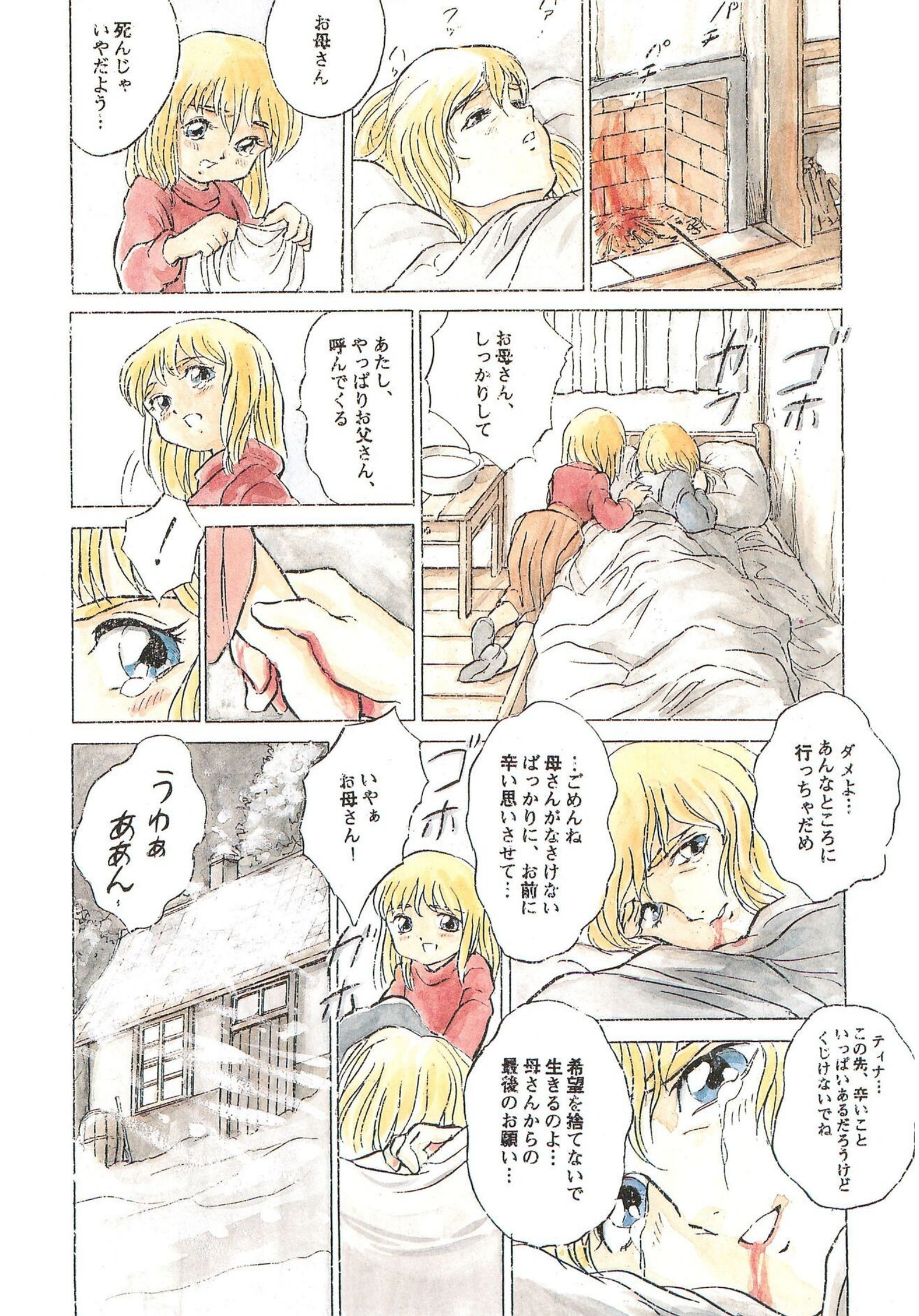

マッチ、
マッチは
いかがですか
マッチのご用は
ございませんか？
困ったわ…
今日はちっとも
売れない
そうよね…
今日はクリスマス・
イヴだもの
みんな、
楽しいことで
頭がいっぱい…



マッチ売りの少女




お母さ～ん
お母さぁん！
ハッ
お母さん!!
ダメじゃないの
ちゃんと寝てなきゃ
いったい
どこに行って
たの？
クリスマスの
食べ物と、
あと、神さまに
お願いに…
なぁんだ
それならあたしも
行きたかったな
お母さんの
病気が、早く
よくなります
ようにって
わぁ、
おいしそうな
お肉
高かった
でしょ、
お母さん？
お母さん、
どうしたの!!


お母さん
死んじゃいやだよう…
ピチョン
ピチョン
ピチョン


ダダダーン
あけて下さい！
お母さんが…
お母さんが！

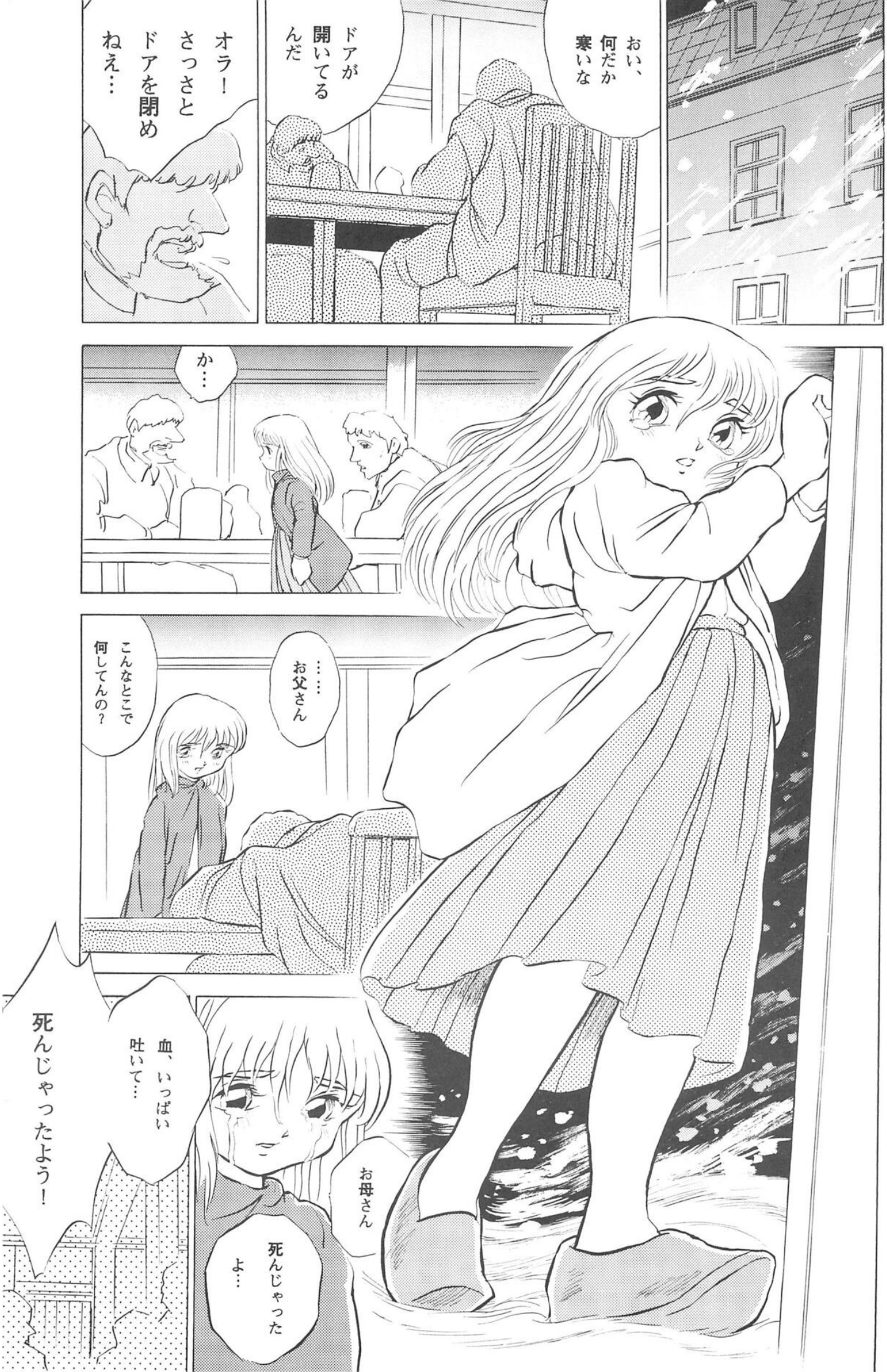

ムダだよ、嬢ちゃん
救貧院のベッドに空きはないし…
おまけに医者すらいないときてる
こんなところへすがったところで絶望するのが落ちじゃよ…

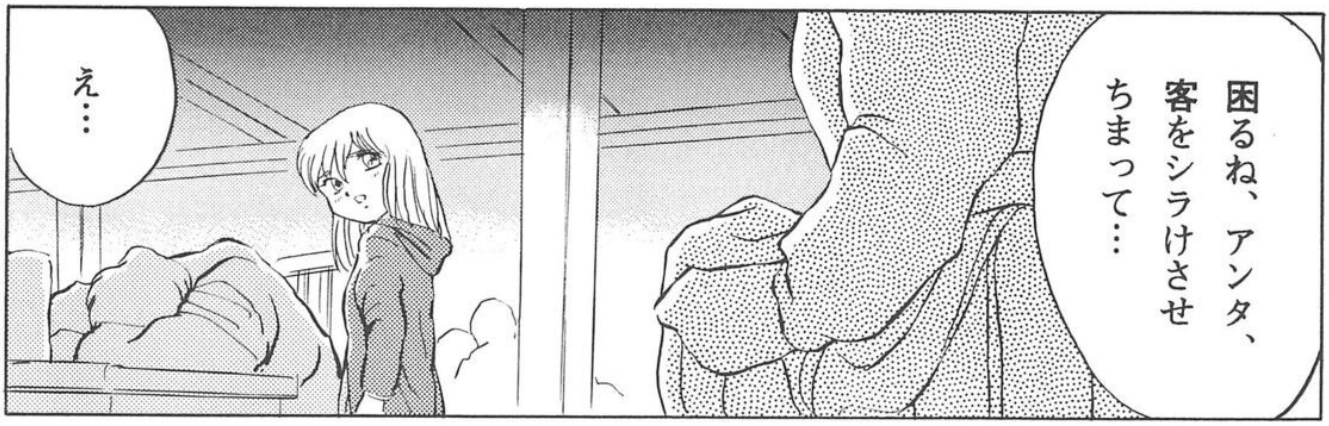

はぁ
はぁ
はっはっ
お願いです開けて下さい！
なんだい？うるさいね
お願いします…
お母さんが発作をおこして…先生を…


フン…
ジロ…
あいにくだけど、先生は、お忙がしくてね…
そんな！お願いですどうか…
コラ！汚い手で触るんじゃないよ！

ここは慈善病院じゃないんだ
乞食は乞食らしく、救貧院にでもお行き！


ぐす、
ひっく…
お母さん…ごめんなさい
お医者さん、みんな…


おい、何だか寒いな
ドアが開いてるんだ
オラ！さっさとドアを閉めねえ…
か…
…お父さん
こんなとこで何してんの？
血、いっぱい吐いて…
死んじゃったよう！
お母さん
死んじゃったよ…

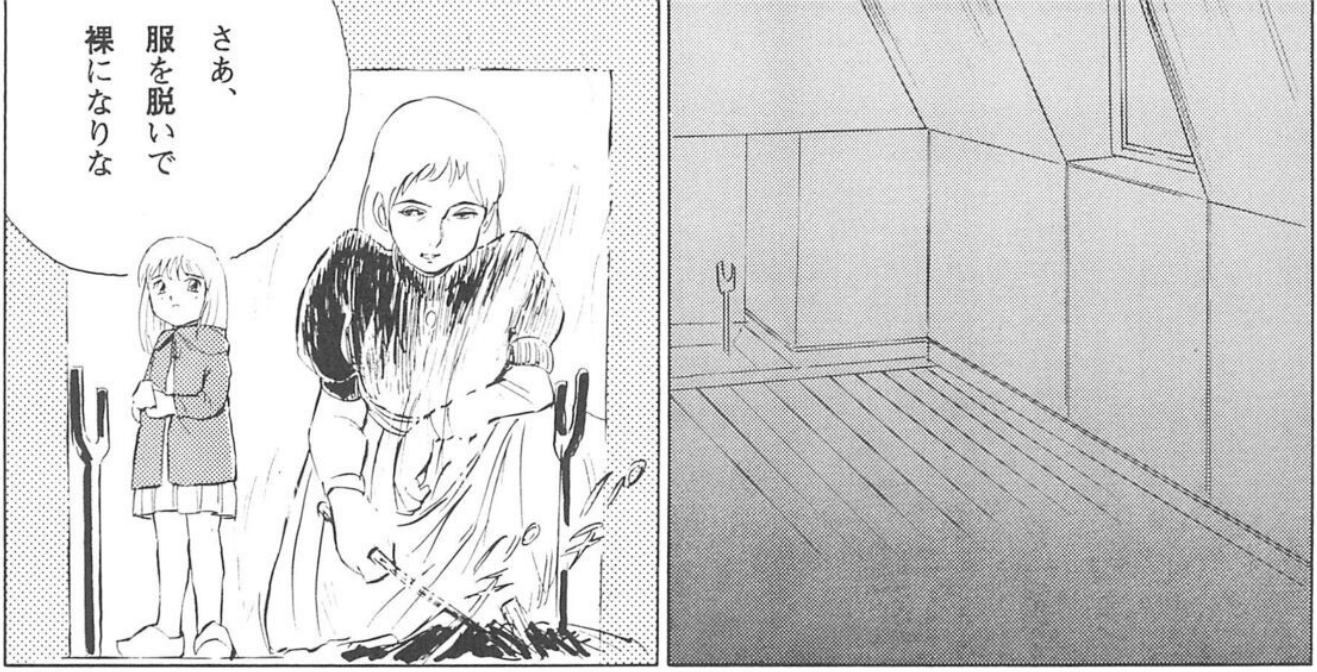

困るね、アンタ、
客をシラけさせ
ちまって…
え…


今、コイツに
何言っても
ムダだよ

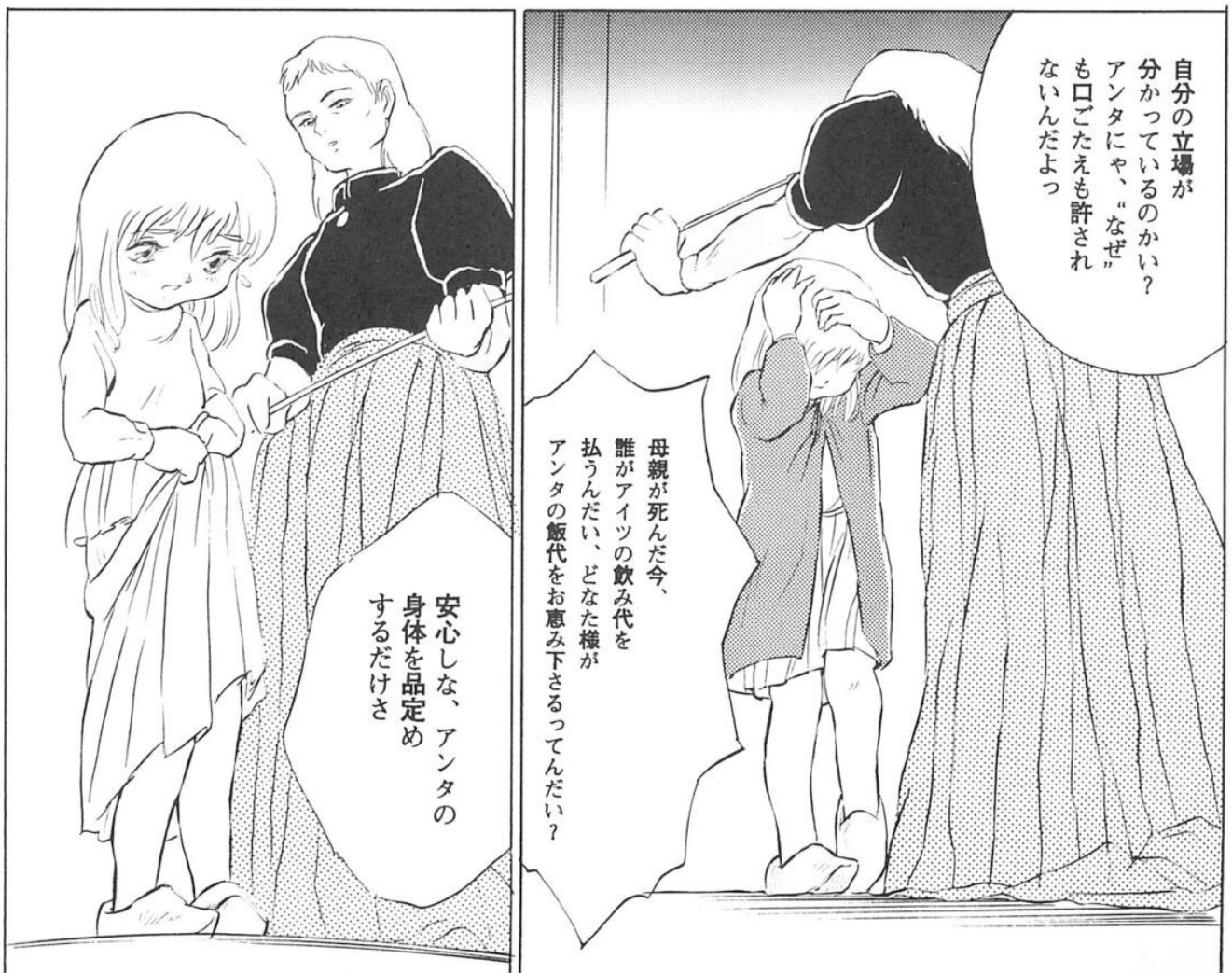

フン…
アンタが
クリスの娘
かい…
ちょうどいい、
ちょっと顔を
貸しとくれよ…


い、いやぁ…
お母さんが…
死んじまったんだろ?
今さら、何をするっ
てんだい!


ほら、
こっちだ
グズグズ
するんじゃ
ないよっ


さあ、
服を脱いで
裸になりな


えっ
なんで——
私、そんなんじゃ
…
ピクッ
ひっ


自分の立場が
分かっているのかい？
アンタにゃ、“なぜ”
も口ごたえも許され
ないんだよっ
母親が死んだ今、
誰がアイツの飲み代を
払うんだい、どなた様が
アンタの飯代をお恵み下さるってんだい？
安心しな、アンタの
身体を品定め
するだけさ


やれやれ、
まだまだ
ガキか
貧弱な
胸だねぇ
…まあいい
今度は
脚をひろげな…
もっと
大きく！


さすがに
こっちはキレイな
薄桃色だねぇ…
けど…
こう
ホールが浅くちゃ
まだまだだねぇ
奥さま、
ちょっと…
コンコン…
こいつは当分
使えないね…
やれやれ
オナニーも
したことない
のかい
フン…
あっ…

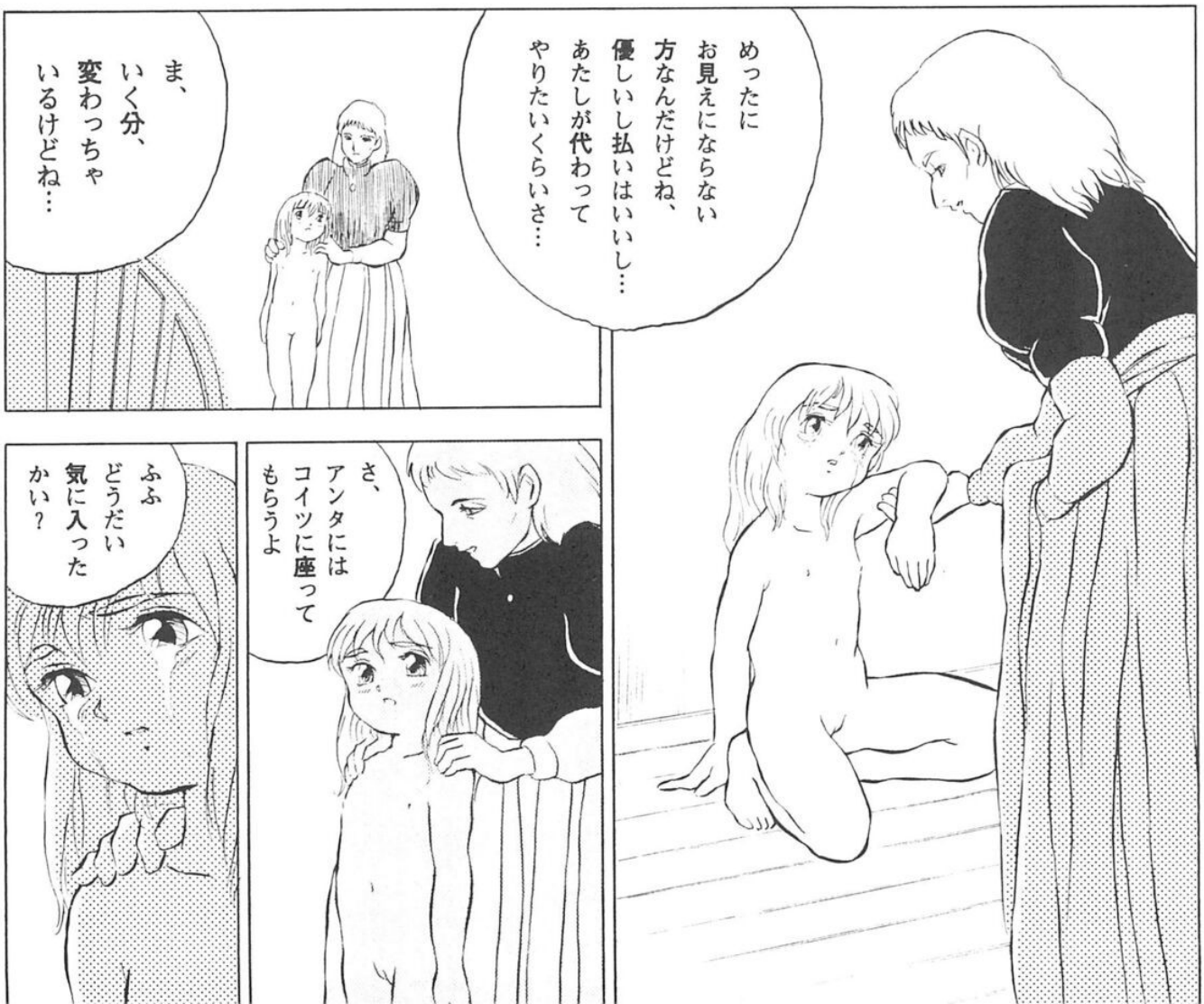
ふうん…

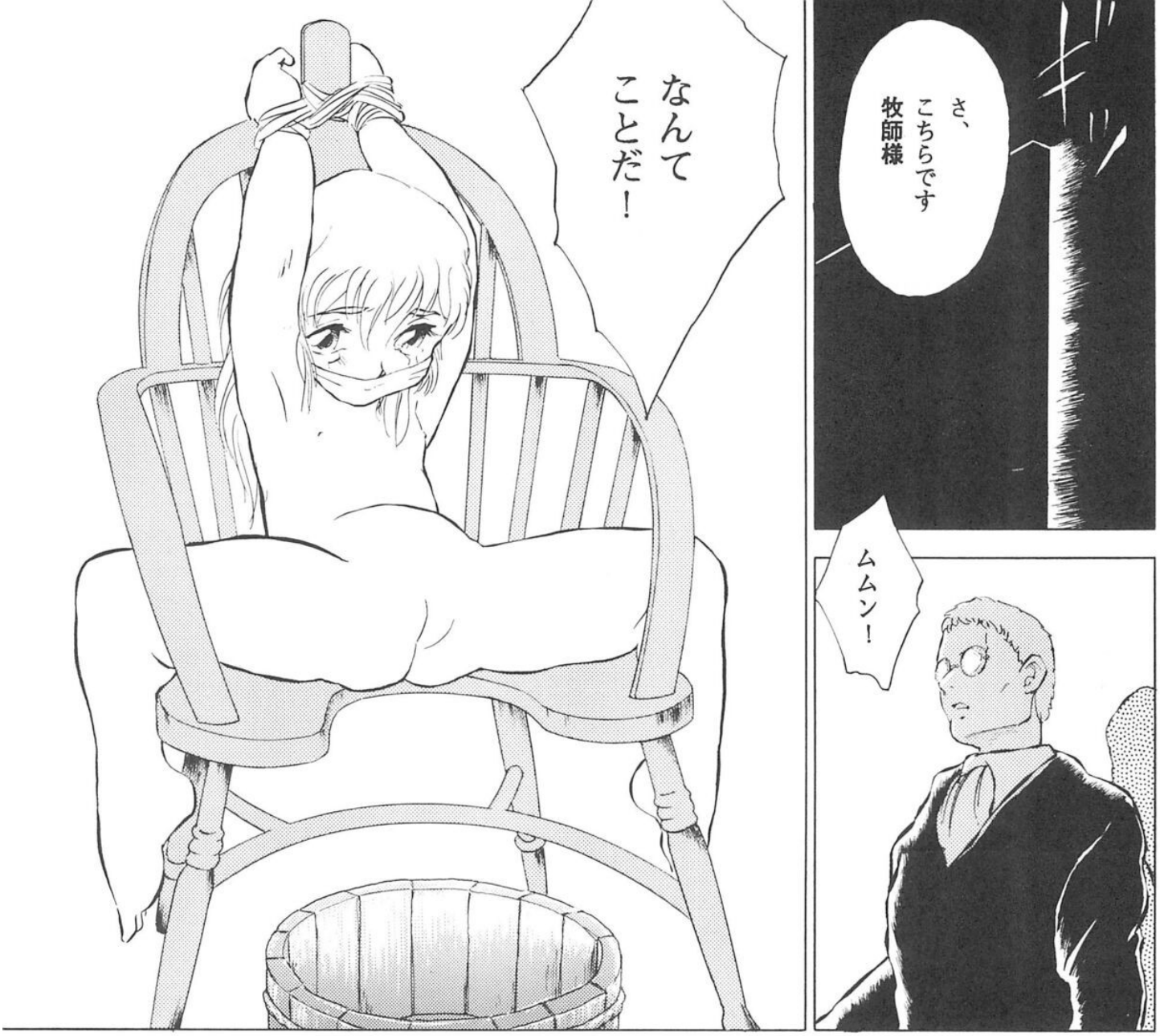
…へぇ…
あの人がねぇ…

アンタ、
ついてるよ



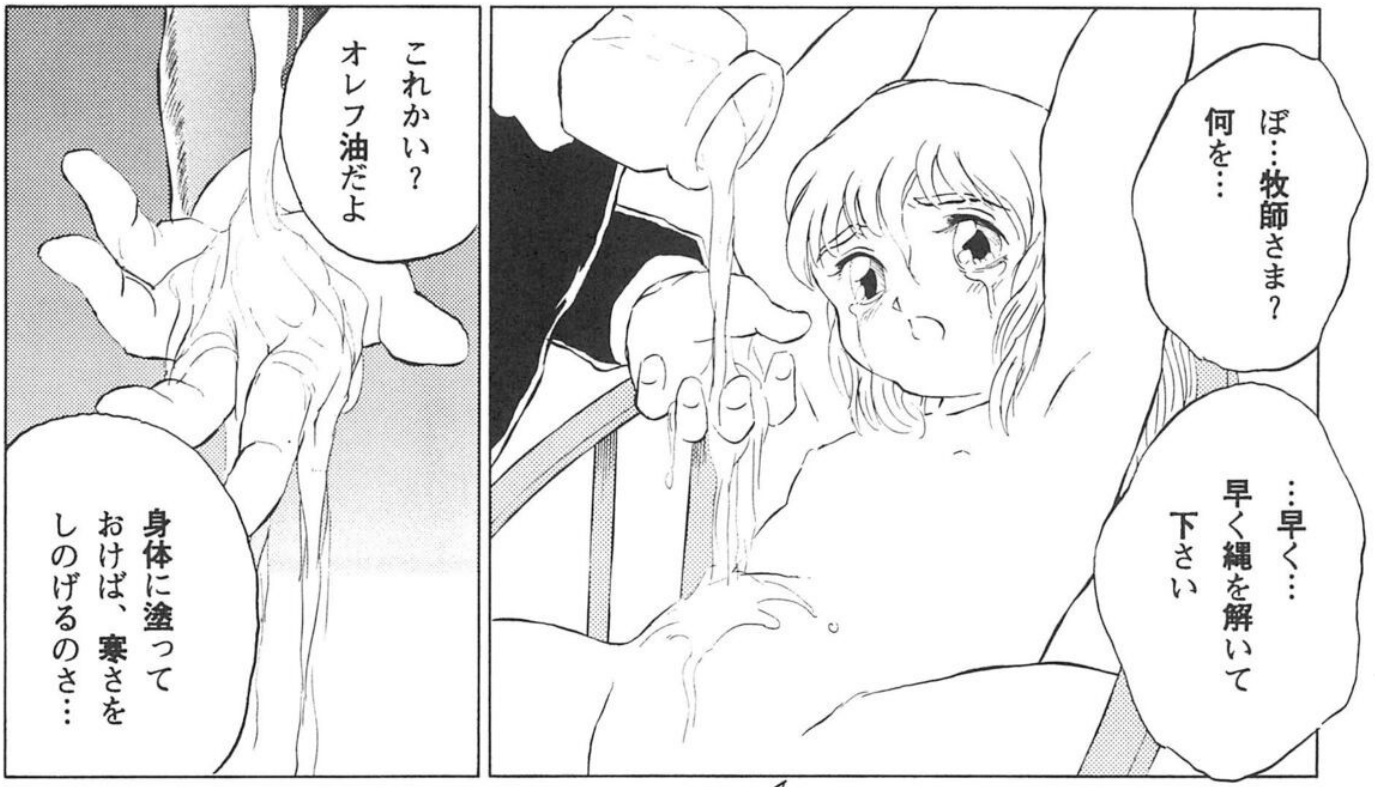





さ、
こちらです
牧師様
ムムン！
なんて
ことだ！


まだ
ほんの子供じゃ
ないか！
君たちには
弱者をいたわり
かばう、慈悲の心が
ないのか！
は、
はぁ…
もういい、
下がりたまえ！
君！
大丈夫か？


かわいそうに…
辛かったろう？
もう
大丈夫だから
ね…
あ…
ああ
牧師さま
あ…
え？


ぼ…牧師さま？
何を…
…早く…
早く縄を解いて
下さい
これかい？
オレフ油だよ
身体に塗って
おけば、寒さを
しのげるのさ…


ほらほら、
こんなに鳥肌たてて
寒いんだろう？
アッ
ここにも
イヤァ…
あそこにも


アッ
クニュ
クニュ
クウ
奥の奥までくまなく
すりこんでおかねば
ならない
ああ…
イヤァ…
どうして？
助けて
くれるんじゃあ
なかったの？


助ける？
私はいつも
民衆を助けている
それに、いつ君に
ヒドイことをした？
ヤ…
ヒト…

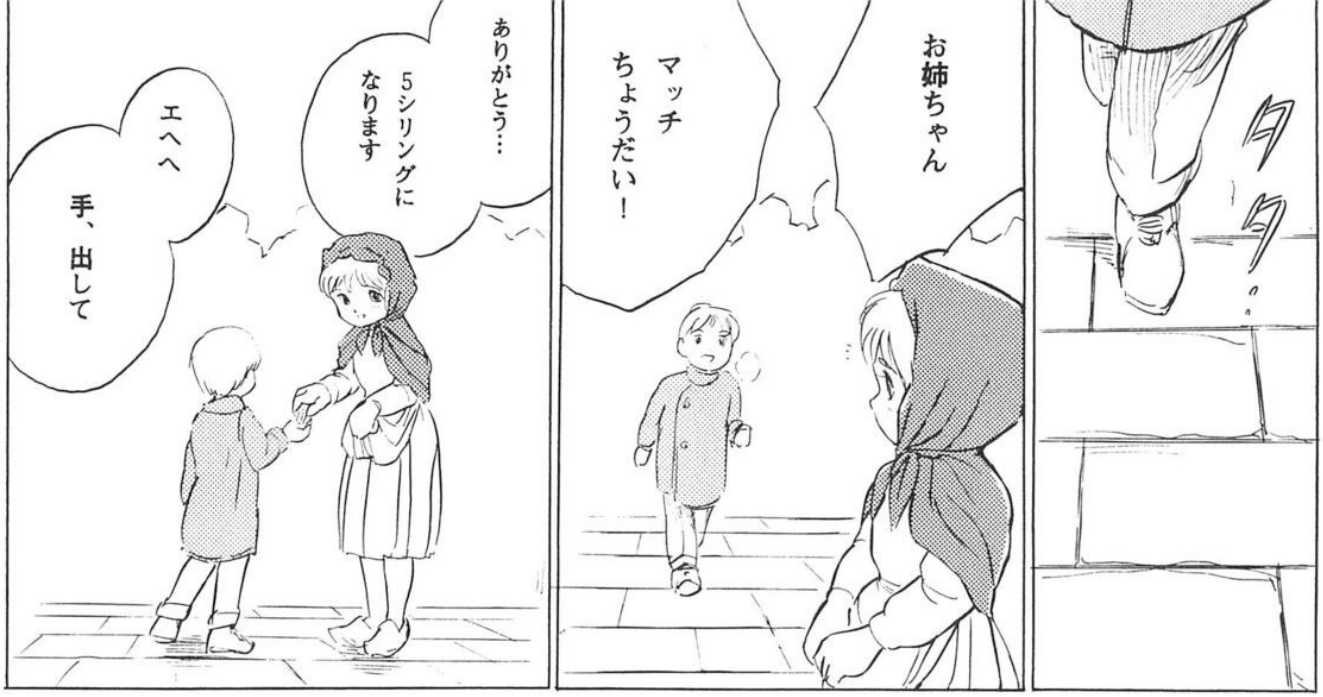

さるぐつわも
とってやったし
寒さよけの
オイルも塗って
あげた
そして今なお
君のかわいらしい
ピンクのアヌスに、
聖なる十字の洗礼を
授けんとしている…
ひっ…


あ
あ
あ
ビク
ビク
どう？
気持ち
良すぎて
声もでない
かい？
でもね…
これから
もっともっと
はるかに
気持ちよく
なってゆくよ
クッ
ほぅら
ひあ
あ
ひあ
ズッ
ズッ
ふふ…
十字架(クロス)の凹凸(モールド)が
心地よいだろう？
あはあっ
ビクン


すばら
しい…
はあ
はあ…
助けて
お母さん…
あぁ
ティナ
もうだめ…
ああ！
この熱き
黄金の流れよ！

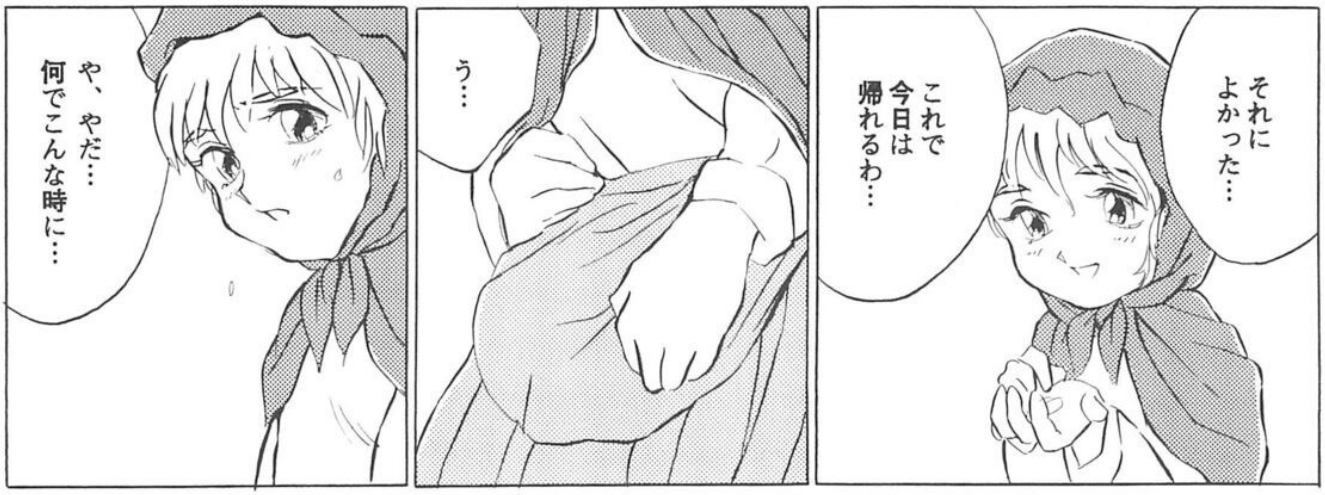

…お母さん…
ああ、マダムから
聞いてますよ
君のお母さん、
今晩、天に召された
そうだねぇ……
ピト…
…きっと
天国で
喜んで
いると
思うよ
うっうっ
やめて
君の初めての
儀式が…
あっ
はぁ
神の使徒の
モノによって
為されることに
ビクン
あく…
ふふっ…
我、少女を
破瓜せり
あぁ…
然る後、
少女の鮮血をして
潤滑液となさん
あっ
ひ…
はっ
あぁ
あぁ…

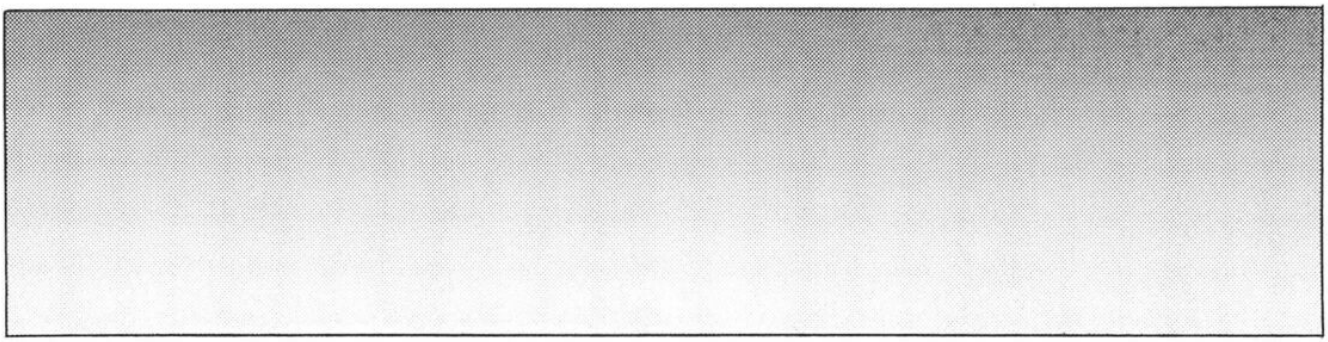

さあ、
私の分身たちを
なめてあげてくれ…
言うことを
聞かないと…
さあ…
ふふ…
ねぇお母さん
あのお姉ちゃん
なんで泣いてるの？
だめよ、
そういうこと
言うもんじゃ
ありません

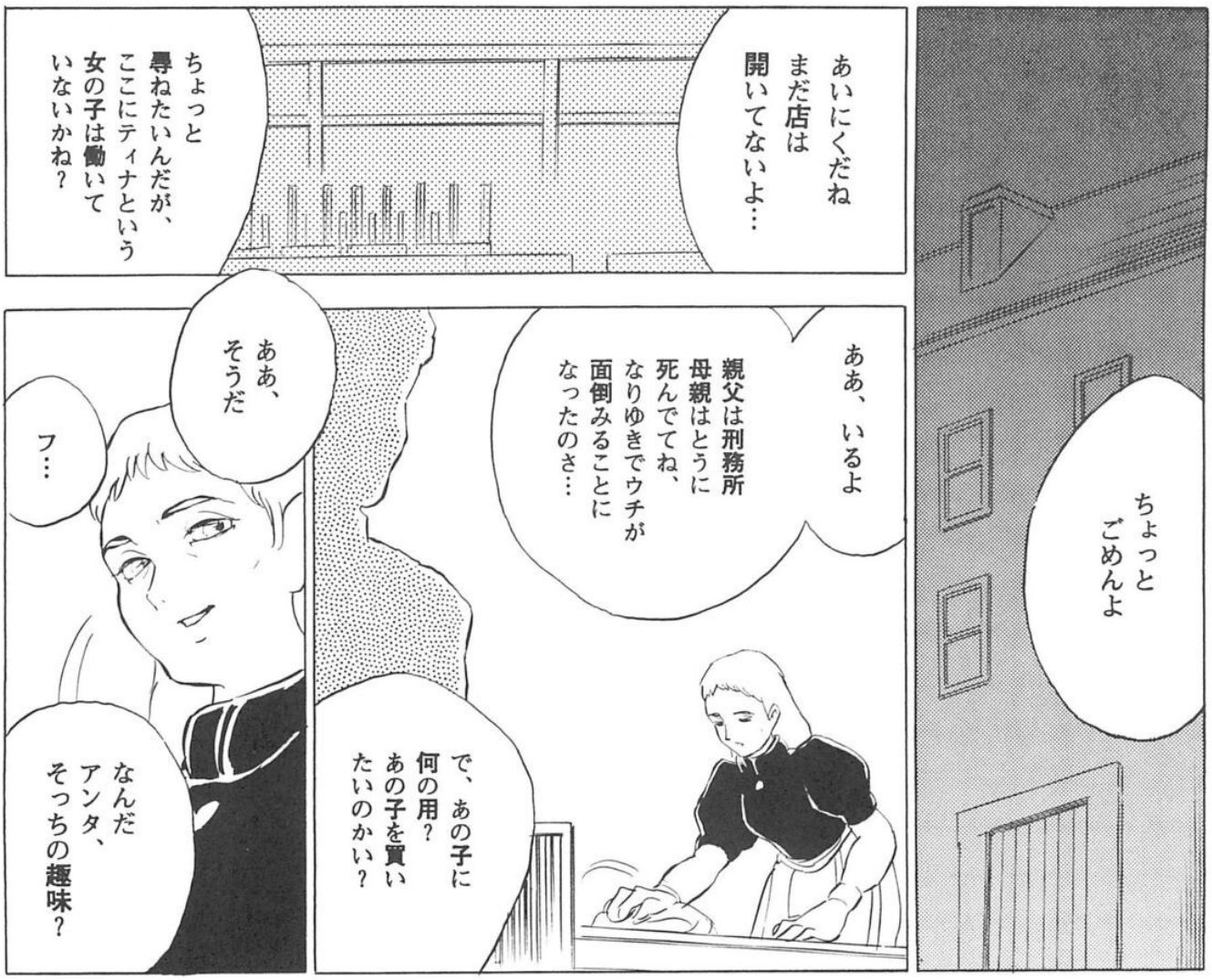

お姉ちゃん
マッチ
ちょうだい！
エヘヘ
手、出して
5シリングに
なります
ありがとう…


あ、
じゃあね
お姉ちゃん
まあ！
ちょっとぼうや、
これ、リグス銀貨
じゃない！
多すぎるわ！


いいの、いいの
お母さんが
くれたんだ
ね、
お母さん
…あ、
ありがとう
ございます！
ポコリ…
お母さん…
お母さんか…
いいなぁ


それに
よかった…
これで
今日は
帰れるわ…
う…
や、やだ…
何でこんな時に…

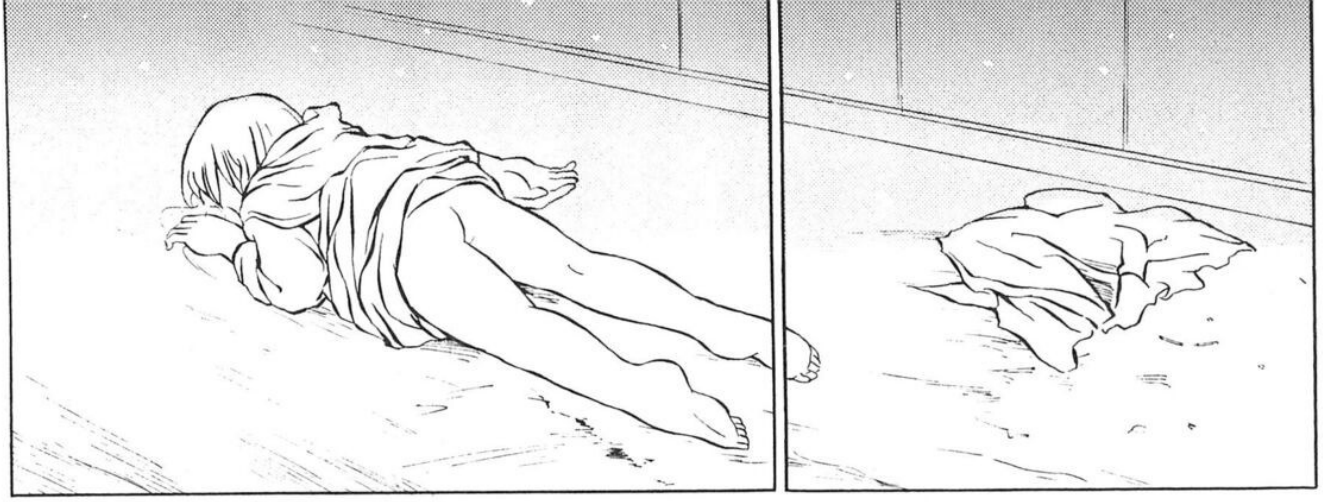


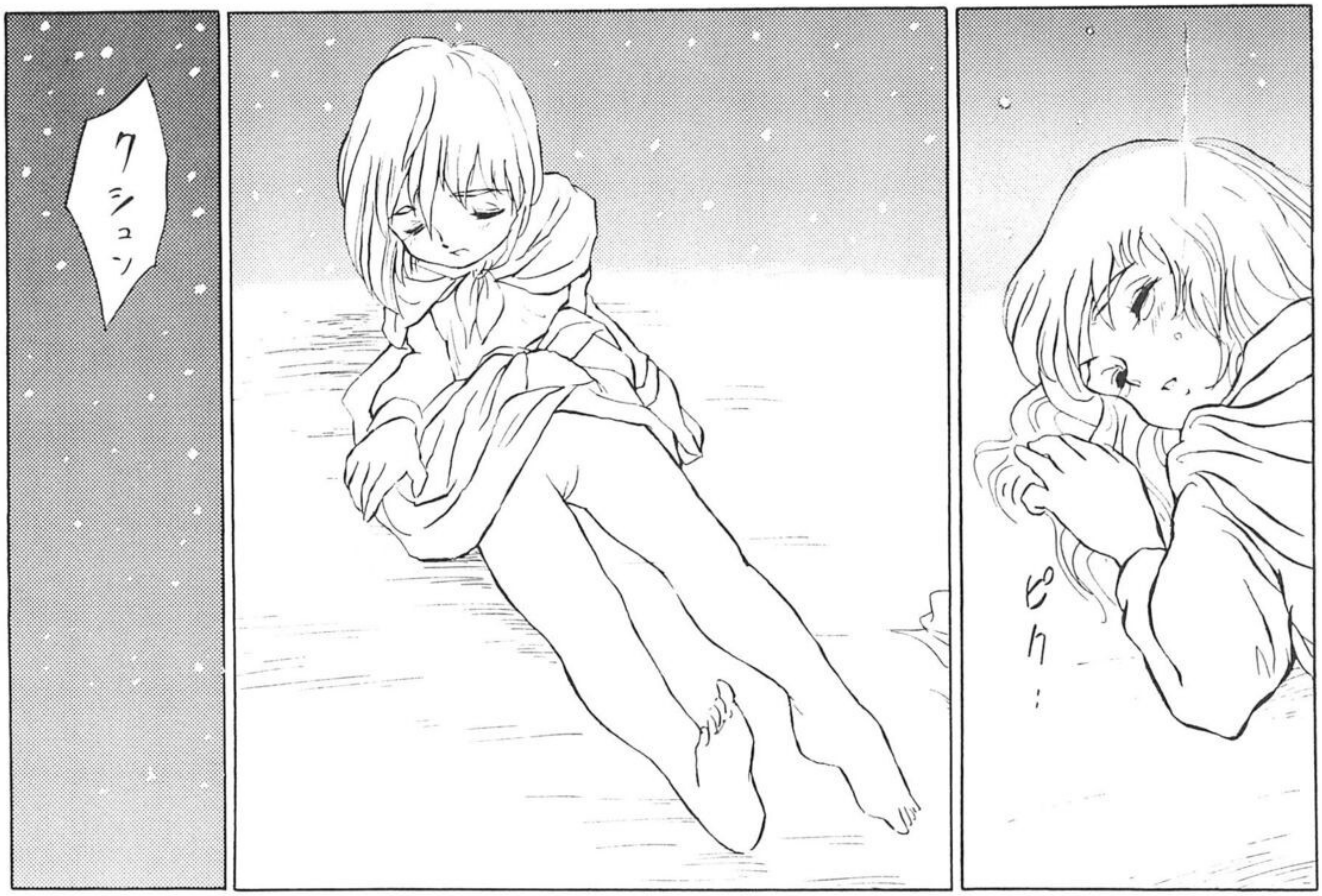

ちょっと
ごめんよ
あいにくだね
まだ店は
開いてないよ…
ちょっと
尋ねたいんだが、
ここにティナという
女の子は働いて
いないかね？
ああ、いるよ
親父は刑務所
母親はとうに
死んでてね、
なりゆきでウチが
面倒みることに
なったのさ…
で、あの子に
何の用？
あの子を買い
たいのかい？
ああ、
そうだ
フ…
なんだ
アンタ、
そっちの趣味？

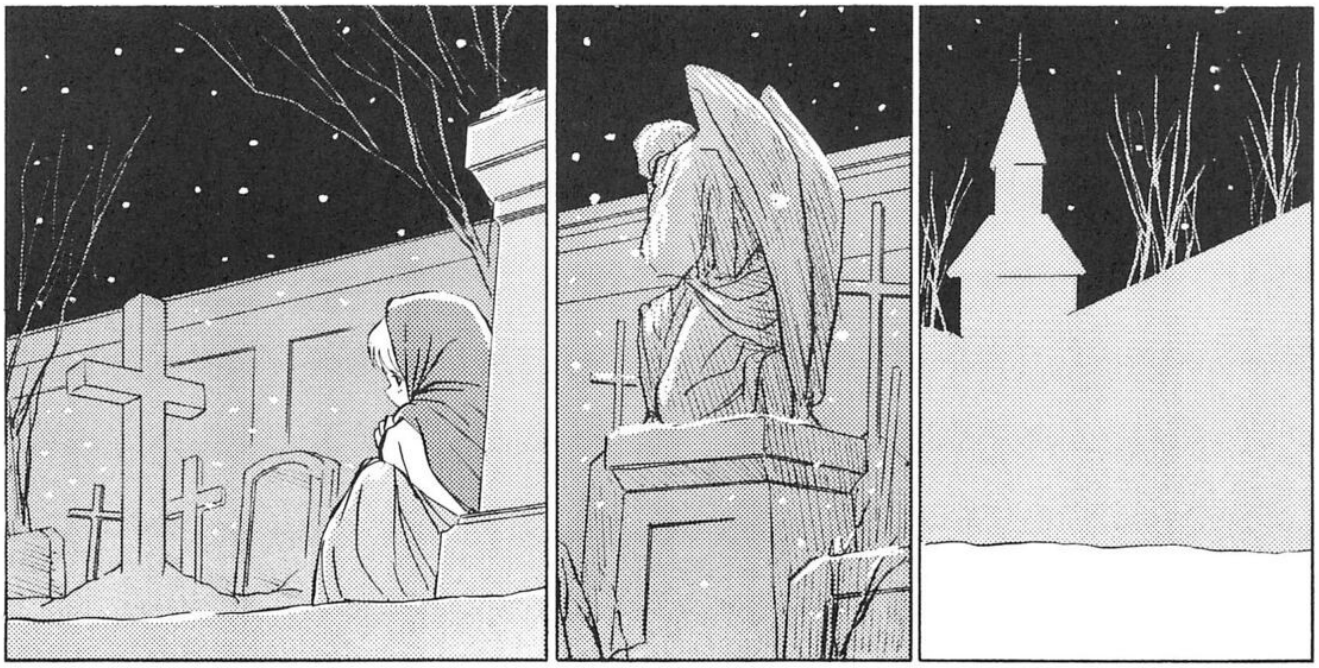

大変そうだね、お嬢ちゃん
おじさんたちにも手伝わせてくれないか？
イヤ！
お願い、やめて下さい！…ああっ
あぁ！痛っ
おお…いっぱい出てるぜ！
奥まで念入りにふいてやっからよ…
あ、
は、


はん
おい、
兄キィ、
そろそろ
かわってくれよ
あっ
ま、
待てよ
は
こいつさすがに
しまりがよくってさぁ…
はぁ


……
遅い…！
ティナがいつも
仕事をしている場所…
それと…彼女が
行きそうな所を
教えてくれ
マダム
そりゃ構わないけどさ…
なんで見ず知らずのアンタが
そんなに心配するんだい？
かわった人
だねぇ…

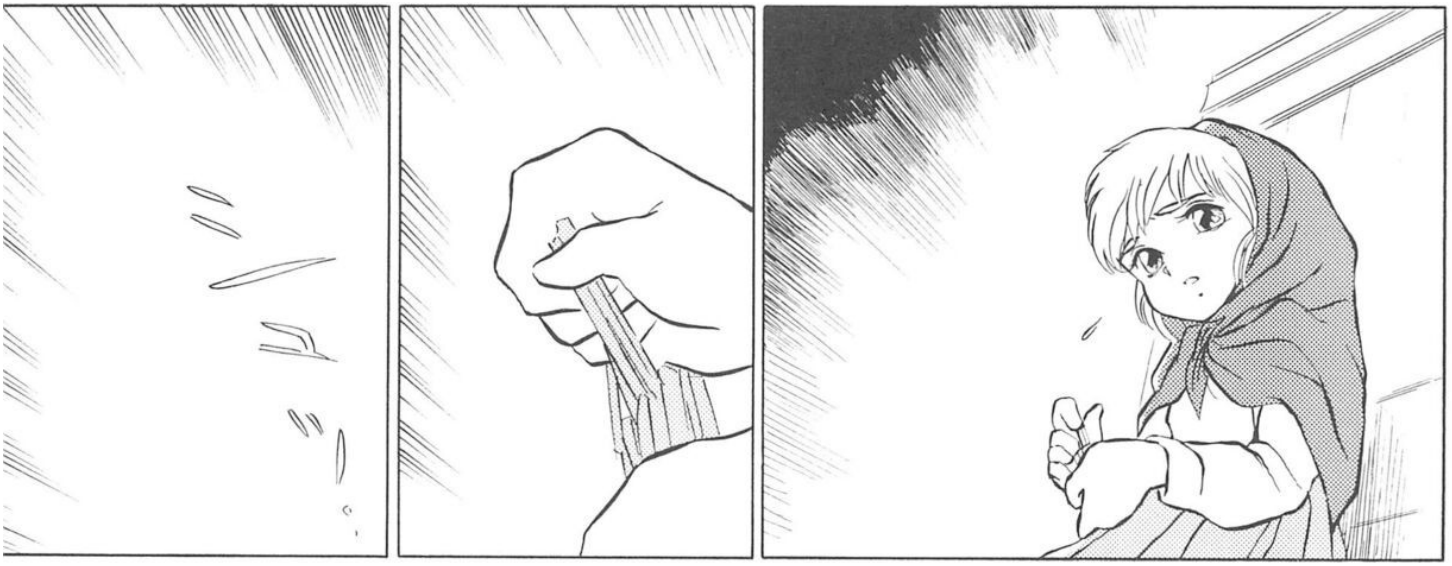


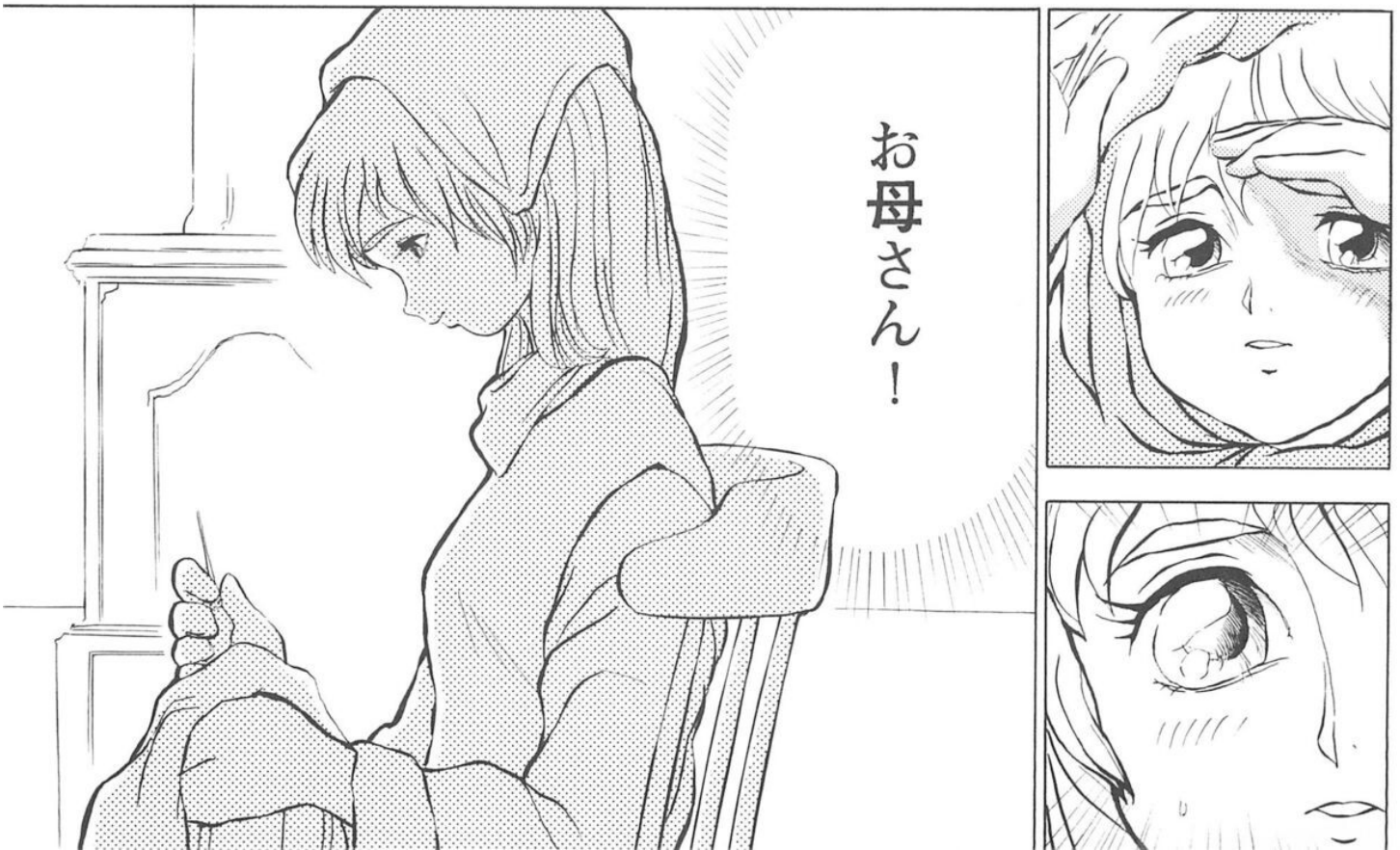

クシュン
ぴくっ

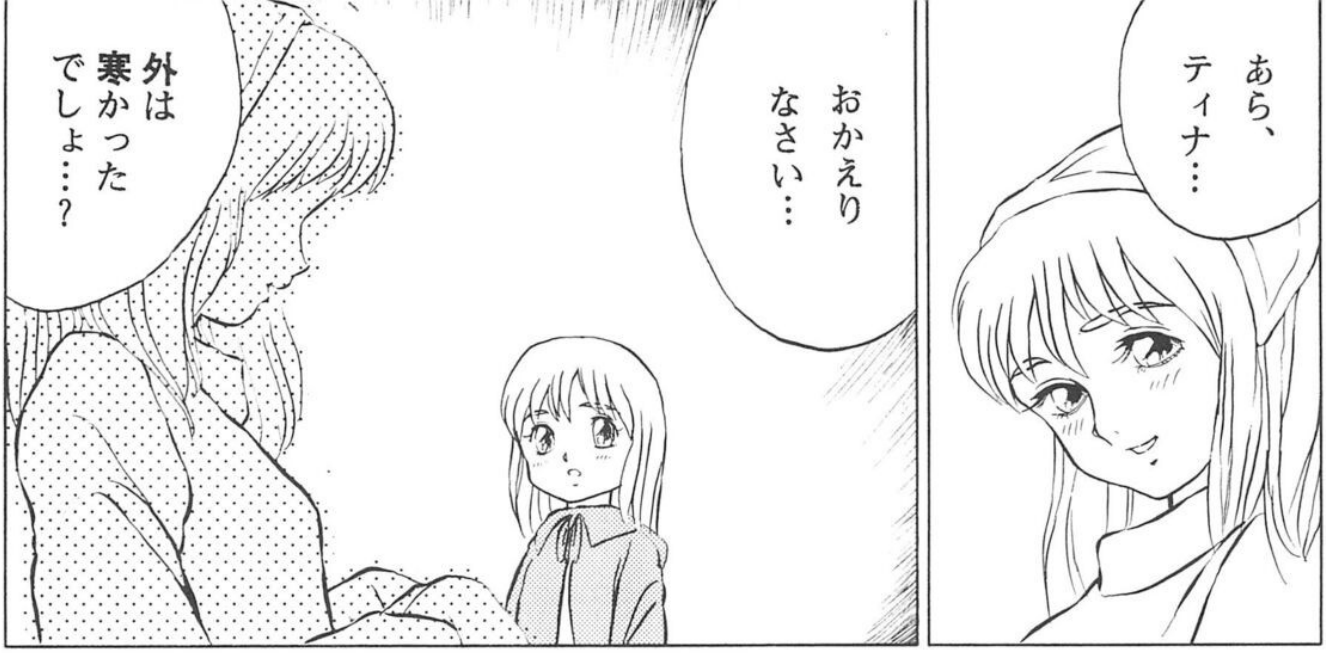


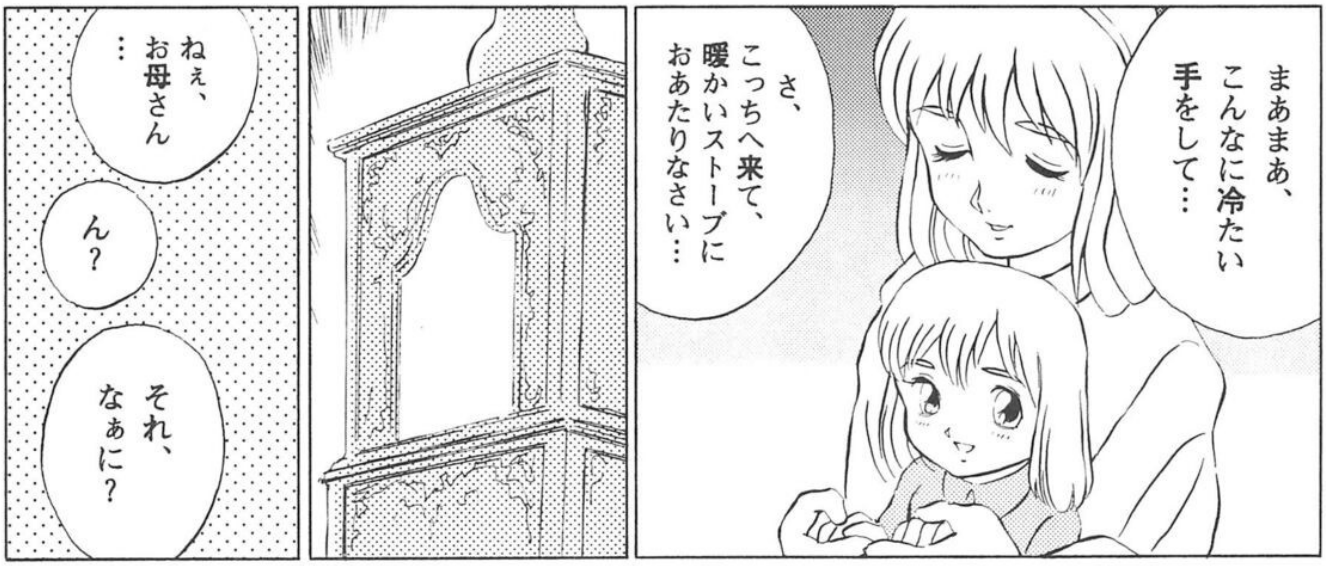

お母さん…
私…
疲れちゃったよ…
希望を
捨てないで…
母さんからの
お願い…
お母さんは
強かったよ…
でも、私は
もうだめ…
私に残って
いるのは…
もう、この
マッチだけ…
暖かい…
なんて、
暖かいんだろう…
あ…
真赤に燃える
ストーブが！
それに、
暖かいごちそう…
わぁ…
とってもおいしそう…
あ…
お母さん!?


ハッ
お母さぁん！



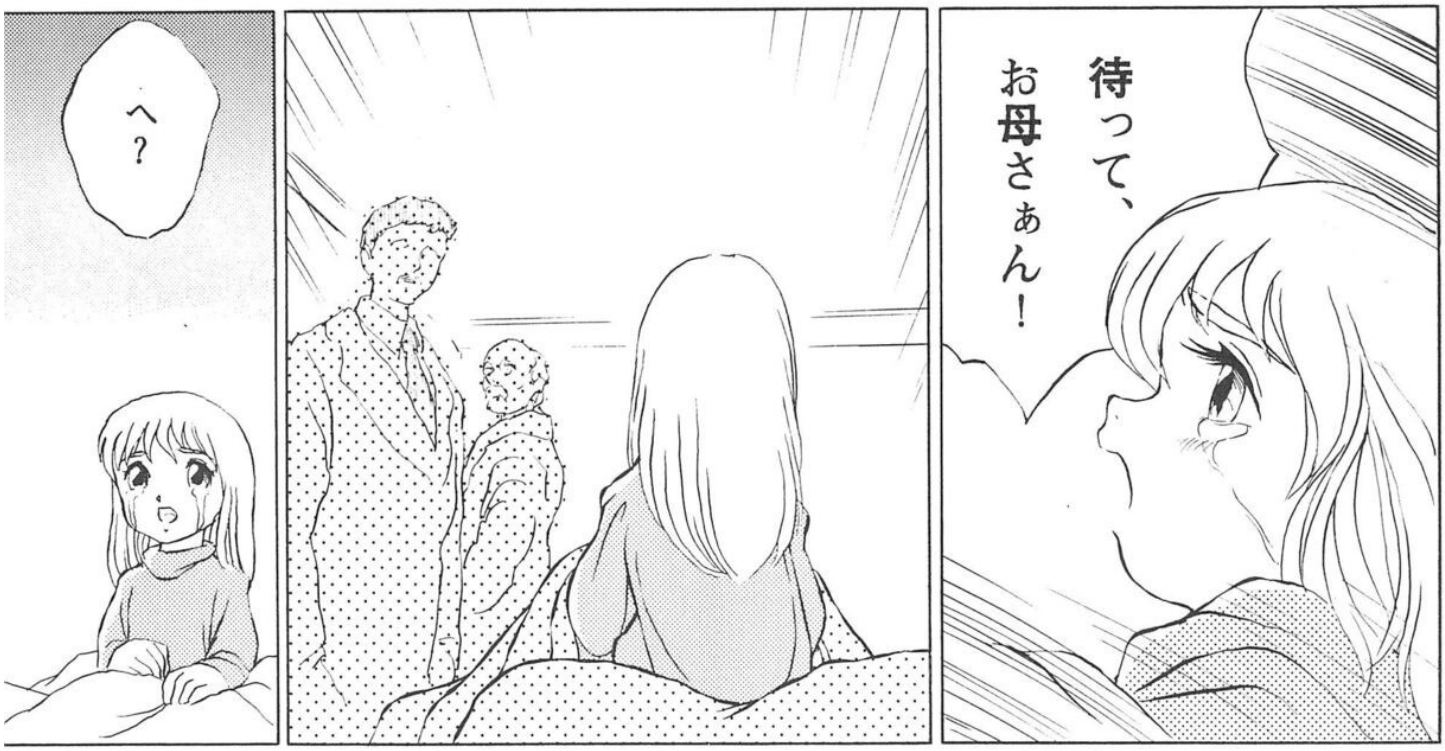

お母さん！


あら、
ティナ…
おかえり
なさい…
外は
寒かった
でしょ…？


まあまあ、
こんなに冷たい
手をして…
さ、
こっちへ来て、
暖かいストーブに
おあたりなさい…
ねぇ、
お母さん
…
ん？
それ、
なぁに？


これ？
フフ…
これはね、
クリスマスの
聖火よ…
キレイ…
ねぇ
ティナにも
できるかしら…
ええ、
もちろん
ティナなら
もっと素敵な
刺繍ができてよ…
そうだ…
あたしね、さっき、
とってもキレイな
明かりを見たよ…
とっても
明るくてね
暖かで…
それで
ね…


あれ？
お母さん
どこ？
見えないよ…
ティナ…
お母さん、やだ…
独りぼっちにしないで！
私も一緒に…
いけません
もう、お別れよ…
ティナ、あなたには
未来があるわ…
いやぁ
待って！
元気でね、
ティナ…


待って、
お母さぁん！
へ？


ま、手足の
凍傷は軽いが、
薬布とマッサージ
を忘れないように
はい、先生
どうもありがとう
ございました
さてと
何から
話したものか…
あなたは…
そうだった、
私の名はヤン、
木彫を生業と
している者だ
君は…ティナ
だね？
は…
はい
実は、君のお母さんの
クリスティーヌから
手紙をもらってね…それで、
ここにやってきたんだ…

その中に
君あての手紙も
同封されていた…

あいにく、仕事で
各地を点々としていたので、
受け取るのが遅れてしまった
…すまないと思っている

お母さんからの
…手紙…？

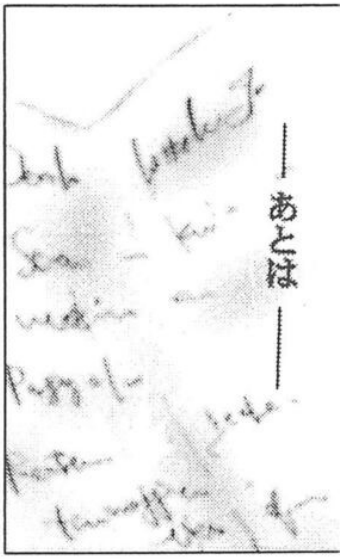
――私の愛するティナへ――

ティナ…あなたが、この手紙を
読んでいるということは…
少なくとも私の願いの半分は
天に通じたものと嬉しく思います。

あなたにこの手紙を届けてくれたのは、
ヤン・シュナーセンといって、
お母さんの生まれ故郷の幼なじみです。
…とっても勤勉な、信頼できる方よ。

…彼への手紙の中で、私はヤンに、
あなたの後見人を願い出ました。
…これが、今の私にできる最善の方法
だったのです…

――あとは――



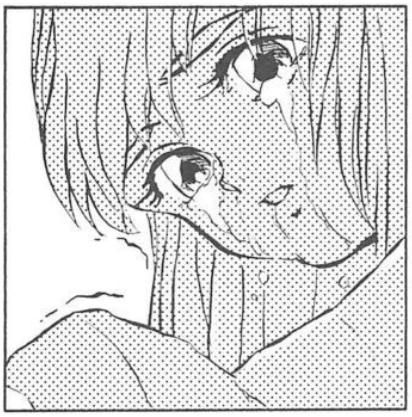


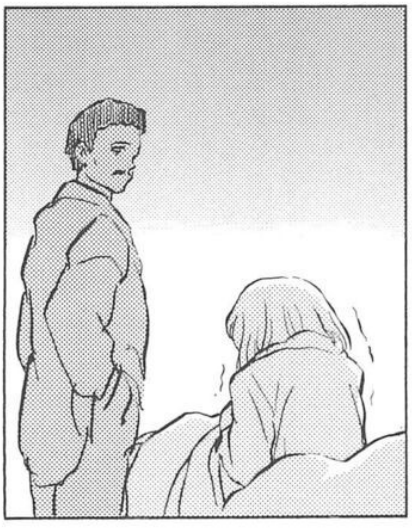
―あとは、あなた自身の決断です。
ヤンがあなたに、この手紙を渡したということ。
…これは彼が、私の願いを
聞き届けて下さったという
証しなのですから…

―あなたの最大限の幸福を願って…

母 クリスティーヌより…







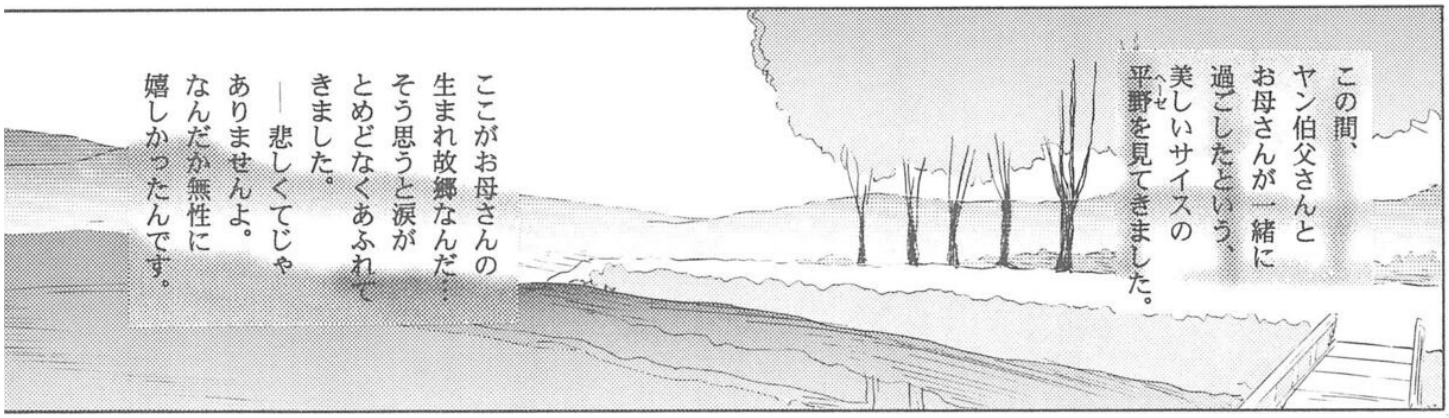




——天国のお母さん——
私は今、満ちたりた、
幸せな時間を送っています



ヤン伯父さんは、とても素敵な
方で、いつも冗談を言っては
私を笑わせてくれます。
それに伯父さんの木彫。
大胆で緻密で、話術に
負けず劣らずの素晴らしさ
なんですよ。



この間、
ヤン伯父さんと
お母さんが一緒に
過ごしたという、
美しいサイスの
平野を見てきました。
ここがお母さんの
生まれ故郷なんだ…
そう思うと涙が
とめどなくあふれて
きました。
——悲しくてじゃ
ありませんよ。
なんだか無性に
嬉しかったんです。



——追伸　私は最近、刺繍を始めました。



あの晩、見た光
あの感動を、
忘れないうちに
形に遺しておこうと思うのです。



マッチ売りの少女～End

解説　マッチ売りの少女

「マッチ売りの少女」はアンデルセンの1845年の作品。

おおみそかの晩、貧しいマッチ売りの少女は、マッチを1本も売ることができず、家に戻ることができない。疲れ切った少女はとうとう街のかたすみに座りこんでしまう。寒さをすこしでもやわらげられないかしら、と少女は持っていたマッチを擦る。すると不思議なことに炎のなかに、次々と少女の望むもの—暖かいストーブや、ごちそう、クリスマスツリー—が現れては消えた。最後に現れたのは少女を可愛がってくれた祖母だった。翌朝、人々は冷たくなった少女を見つけて憐れむ。でも少女が光の中を祖母に抱かれて天国へのぼっていったということを知るものは誰もいなかった。

アンデルセン童話は、グリムのような伝承蒐集の童話ではなく、ほとんどが創作童話である。伝承をベースとした作品も、彼自身の語り口で演出されている。

アンデルセン童話の特色は、その悲劇性と思われがちだが、けっしてそんなものばかりではない。そういった作品が突出して有名なだけだと思う。むしろ前述した通り、彼の巧みな文章構成、表現の美しさに、その真価がある。

さて、「マッチ売りの少女」であるが、これはアンデルセンが幼少の頃、母親から聞いた貧しい少女時代の話に基づいている。

依頼人から木版画を三枚わたされ、この中からひとつ選んで、それに見合う童話を書いて欲しいと頼まれた。アンデルセンの選んだのはマッチ売りの少女（左上参照）であった。私は最初、この絵は「マッチ売りの少女」のために描かれた挿し絵のひとつだと思っていた。それゆえ、このエピソードはとても新鮮な驚きだった。

「でも、家を出たときには、スリッパをはいていたのです。」「雪がひらひらと、少女の長いブロンドの髪の毛に、降りかかりました。その髪は、えり首のところに、それはそれは美しく巻いてありました」（矢崎源九郎訳／新潮社）

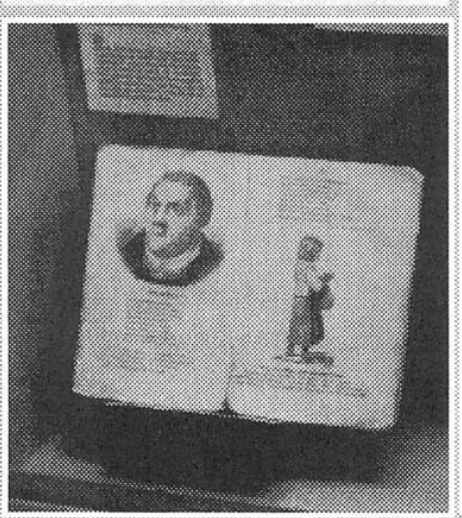
こまかな服装や容姿の描写が、木版画と一致しており、興味ぶかい。

…日本に出まわっている絵本などの「マッチ売りの少女」は、忠実な翻訳ではなく、低年齢に読みやすいようにとの配慮のもと、再話されたものがほとんどである。いらぬ「配慮」だと思うが、そのせいで絵本の挿画も、マッチを入れているのがエプロンではなくカゴだったり、黄リンマッチでなく、安全マッチであったりしている。



Denne lille pige med svovlpindene har givet H.C. Andersen inspiration til en af de historier, han havde fået bestilling på til en almanak i 1842.
(170).

「マッチ売りの少女」のモチーフとなった木版画。T・ルンビー(1818-48)の作品。説明文に"givet H.C.Andersen inspiration …"と書いてある。
下はアンデルセン博物館（オーデンセ）の展示品。それにしても30歳で他界しているとは…20代の作品かぁ…むぅ。



アンデルセンの作品は、日本での象徴的な作品イメージとは違って、かなりリアルタッチであり、その当時のデンマークの人々にはピンとくるたとえや、固有名詞が頻繁に出てくる。

「マッチ売りの少女」では、少女がマッチを擦ったときに現れる鉄ストーブの真鍮のトロムレ（ストーブから外気へ通じる煙突のようなもの）や、少女が履いているトフラー（板底の皮スリッパ）が挙げられるが真鍮のトロムレは豪華さを意味し、冬の外出に母のお古のトフラーしかないことは極貧を意味している。（鈴木徹郎著／アンデルセンその虚像と実像より）いずれも訳文ではそのイメージを得るのは不可能である。…現代の、しかも日本で出す場合には、そのような忠実さは、無意味なものかもしれない。日本人の想像の範疇での挿画もいたしかたないかも知れないのだけれど…。

マッチの話がでたので補足しておくと、この時代は黄リンマッチが主流であった。非常に発火しやすく（空気中で50～60℃）石や壁にこすりつけるだけで着火した。1830年以降、量産されたが、黄リンの毒性や低温での発火事故等が問題となり、デンマークでは1875年、いちはやく製造禁止となっている。

マッチの値段はいくらくらいだったのだろうか？　原文での金額提示はないが、「1シリングのお金さえめぐんでくれる人もありませんでした」とあるから、これ以上。別の作品では、チーズひとかたまりが8シリングとあるから、だいたい5～10シリングといったところでしょう。

↓アンデルセン博物館に展示されている陶器製の人魚姫。マッチ売りの少女がなかったのでかわりに。胸のふくらみ具合が絶品です。



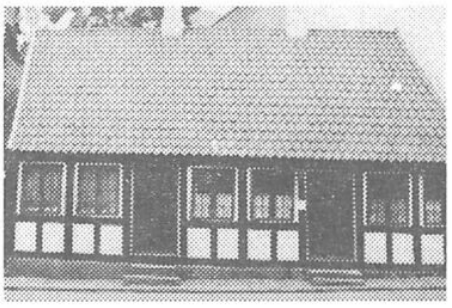


当時の通貨単位はリークスダラーで、部屋代が一月20リークスダラーで高い方だったというから、これを10万円と仮定しよう。1リークスダラーは6マルク、1マルクは16シリングだったので、計算すると、1シリング＝約50円となる。だいたいこんな感じで、（別の本のデータから計算すると10～20円くらいになったりします）いくら売ったところで、たいした儲けにはならないことは容易に想像がつく。

さいごに、今回の僕の「マッチ売りの少女」についてひとこと。原作のラストは充分認知されているので、できれば死なせたくなかった。助けられるくだりは甘いと思われるかもしれませんが、比較的マイナーなアンデルセンの作品「イブと小さいクリスティーネ」に、その元を採ってあります。

幼なじみで、子供ながら結婚を約束しあっていたイブ（男）とクリスティーネですが、クリスティーネは数年後、金持ちの商人との縁談が持ち上がります。イブは、彼女の幸せのため身を引くこと決心し、地道に田舎で木工職人の修業と農耕を続けます。その後、イブは、畑の中から歴史上の遺物を発見し、賞金を手に入れます。その手続きでコペンハーゲンを訪れたイブは、迷いこんだ貧民街で、幼いころ、よく遊んだクリスティーネに生き写しの小さい女の子が泣いているのを目にします。女の子について、あるみすぼらしい部屋に入ってゆくと、そこにはあのクリスティーネがまさに息をひきとろうとしていました。彼女の死に際の願いから、イブは彼女の娘をひきとる…

←アンデルセンの生家（上）とアンデルセン博物館（下）（オーデンセ）



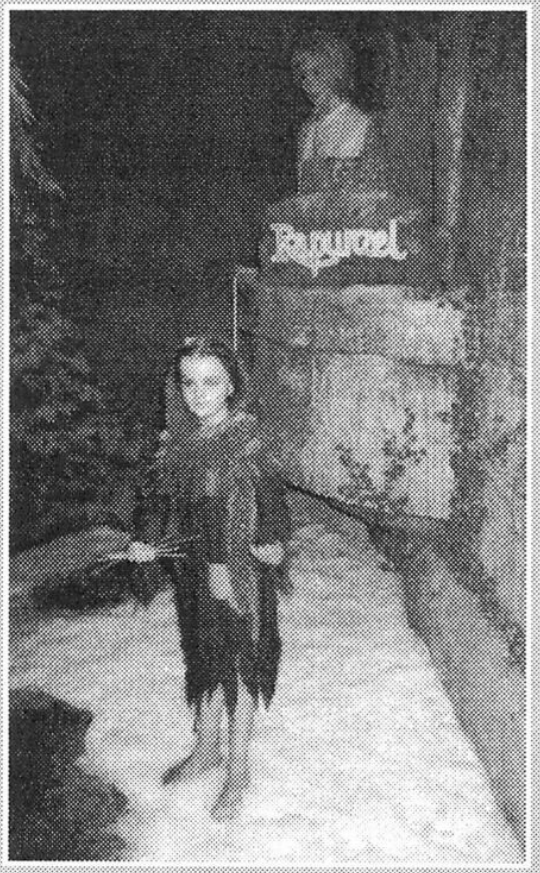




←コペンハーゲンの「紙人形博物館」の入り口に飾ってある「マッチ売りの少女」。ささやかで、地味な作りがけっこういい味だしていました。

↓同じくコペンハーゲンの「ダッソー蝋人形館」に展示された「マッチ売りの少女」

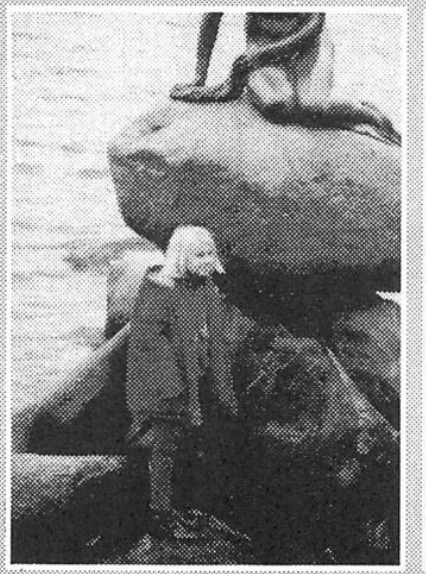
こらダッソー。お前センスないんじゃ。薄っぺらい造形すな。手にもってる竹ひごみたいなのはマッチなのか。あと後ろにいるのはラプンツェル。あのぉ童話が違うんですが…。目もやたら怖いし。ダッソー系の蝋人形館はヨーロッパ各所にあるが、入らないこと。ひどいよ。



…といったところで話は終わります。が、この話も、とりようによってはかなり倒錯しています。自分の好きだった、しかも結婚を果たせなかった女の子の娘を、手に入れるわけですから。ちなみにイブは独身で、しかも娘は生き写しときていては…。岩波文庫の「完訳 アンデルセン童話集3」に収録されています。

ところで去年、デンマークに行って、コペンハーゲンやオーデンセなどアンデルセンゆかりの地をひととおり見てきました。このコーナーの写真はそのときのものです。「マッチ売りの少女」像を期待したのですが、僕の見た範囲ではありませんでした。チボリ（遊園地）内のダッソー蝋人形館に非常に出来の悪いのがひとつあっただけでした。さらに書店にアンデルセンの絵本があふれているかと思いきや、そうでもない。絵本を大量に買い込みたかったのにちょっと残念だったのを憶えています。

どてろう



←コペンハーゲンの埠頭にある「人魚姫」の像。





←健康的なコペンハーゲンの市民

後記

前作「シンデレラ」では解説を落としてしまい失礼しました。とりあえず書くことはありますので、来年以降にリリース予定の「千枚皮の少女」にまとめて載せるつもりです。

今回は多くの方々にご迷惑をかけつつ、助力を拝領しつつ、じわじわと急ピッチに製作されました。本当に申し訳ないと、関係各位にお詫びしつつ、それ以上の感謝を申し上げます。

特に、面倒なアシスタント作業をこなしてくれた多摩川大吉楼氏、樋口氏（樋口くんは作業BGMもたくさん貸してくれてありがとう）、ネームをイラストレータで打ってくれた、いいからだつきの田野氏。

また、表紙をビクターTruePrint5600で出力くださった頭狂倶楽部のZUN先生（TruePrint5600は最高です。お金持ちになったら買います）、

そして度重なる重度の締切り遅延にも、いつも親切に応対下さった黒滝様、並びにトム出版様。本当にどうもありがとうございました。

また、お手紙をくださった方々、そしてこの本をお買い上げくださった読者の方々にも重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

来年も童話クラブと倒錯童話集をよろしくお願いいたします。

どてろう

童話クラブ・連絡先
〒113 文京区本駒込3-32-1高垣方2F
喜多方「童話クラブ」まで

童話クラブ'96のラインナップ

兄と妹
千枚皮の少女
野の白鳥

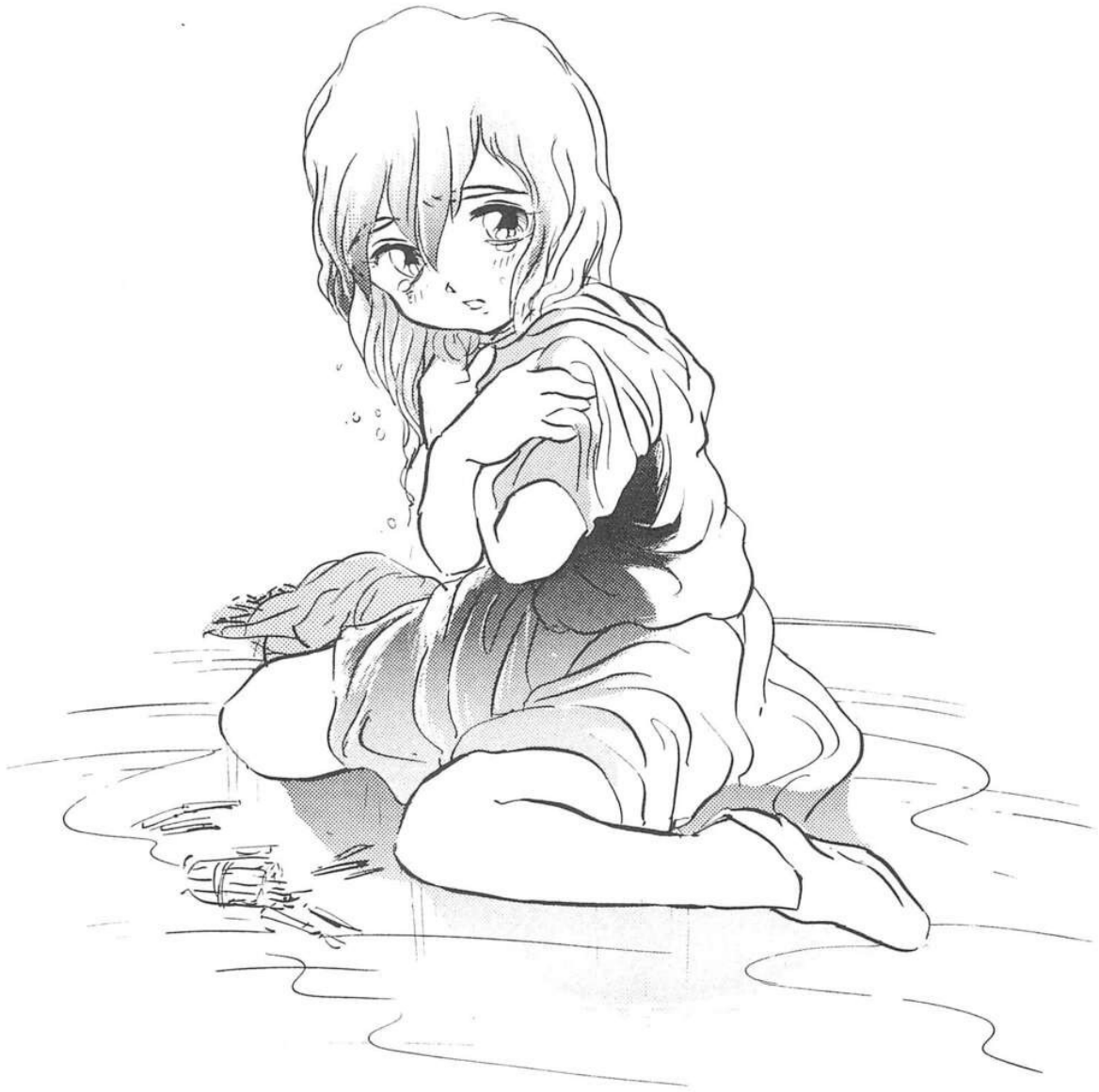
…の中から多くて2本



童話クラブは、

次回、
コミックマーケット50に参加の予定です。

おくづけ



倒錯童話集4.0
「マッチ売りの少女」
著者：どてろう
De Terrault'95
発行：童話クラブ
印刷：トム出版
1995年12月30日初版発行



Eventry af H. C. Andersen,
Den Lille Pige Med Svovlstikkerne

童話クラブ'95

DohwaClub'95 All Rights Reserved